

ちが神社前の踊り場所に集まってきました。そして、青年たちが踊りはじめると、われもわれもと村人たちが踊りの輪に入ってにぎわい、たいこ打ちにもいつそう力がこもってきました。踊りも最高ちょうようになってきたとき、今まで聞きなれない歌が歌われたのです。

「ハアー 江持洞門鬼亀ぬいた、会津磐梯山だれぬいた」

見ていた人もいつせいに歌声の方に目を向けたほどです。その後は、踊り子たちが声をそろえて、「江持洞門鬼亀ぬいた……」と歌い出しました。

会津の磐梯山が大ふん火したのは、明治二十一年の七月十五日で、洞門完成と同じ年であったのです。だから、亀五郎の功績こうせきをたたえた歌でもあったわけです。そののち、明治三十年、新しくできた洞門こうせきを通る道が県道になり、交通もいつそうひんぱんになってきました。交通がひんぱんになるにつれ、道路の道はばも広くなってきたので、明治四十一年、昭和十年、昭和五十七年の三回、洞門もかちちょうされ現在のようになりました。